女性のつどい、育児・介護

全国のとりくみ討論

女性協　拡大常任委員会開く

女性協議会・拡大常任委員会の一日目は、7月2日、同日に都内で開催された「民放・東京支社に働く女性の集い」へ、各地連の女性協・議長さんにも参加していただき、活気ある集会となりました。

二日目は麹町で「全国女性のつどい・鹿児島集会」の総括、来年の「つどい」、各地連の報告（春夏闘の成果・最近の問題点）、定期大会についてなどを終日、討論しました。各地連の報告を抜粋します。

◆北海道地連―「札幌テレビ」では、一時金算式から家族給を削除され育児支援金制度導入となり、小学校就学前の子を扶養する社員に対して、子一人につき月額五千円（年額六万円）の支給となった。これは従来の生活補助の意味が薄れている点に問題が残る。また、10月からラジオが分社化される。◆東北地連―地連内で女性部の要求に関する成果は少なかったが、「岩手放送労組」では育児休暇明けの女性組合員の要求実現のため新たに「半有休制度」を獲得。看護休暇として法定以上の七日間を有給で獲得できた。◆北信越地連―「富山テレビ」ではメンタルヘルス面でのサポート体制に一定の進展があった。女性アナウンサー（契約・派遣）の入れ替えが頻繁で、問題が顕在化しつつある。「福井テレビ」では、育児・介護休業制度で改善改定があった。◆東海地連―「静岡第一テレビ」「静岡朝日テレビ」「CBCクリエイション」で育児・介護休業法改正に基づく規定を獲得した。◆近畿地連―「毎日放送」では育児・介護休業法改正に合わせ規定改定を獲得。小学校就学前の子の看護のために一年に五日まで看護休暇を有給で取得可能に。「朝日放送」では出産祝い金が二万円アップ。育児特別休暇が小学校入学まで五日、入学後三日に。介護休業期間を勤続年数に加算。育児時短、介護時短を入社一年未満でも取得可能。「関西テレビ」では育児勤務の取得期間を小学校三年生の年度末までとなる。「読売テレビ」では育児時短が小学校三年生まで一日二時間可能に。「エイデック」では育児時短が三時間に（無給）。転勤規定が改定され、予てより転勤費用の会社負担を交渉していた点は解決金として三十万円の支払いで問題の解決とした。◆中四国地連―「広島テレビ」「テレビ山口」「南海放送」で改正育児・介護休業法に沿って改善改定される。◆九州地連―「サガテレビ労組」では産休の有給化（産前六週・産後八週）を獲得。55歳以降の処遇手当てのアップを獲得。その他の労組から派遣社員の急増、雇用形態の複雑化により女性社員の減少。「家族手当」の支給基準について問題があり協議中などがあげられた。◆沖縄地連―「ラジオ沖縄」では女性組合員五人が50歳以上で固定賃金だった。今後は全世代で賃金の改定を行う回答を得る。◆関東地連―キイ局を中心に出産・育児に関する制度はローカル局に比べて充実してきている。その中で「日本テレビ労組」は扶養教育手当廃止の撤回闘争に取り組んでいる。

＊＊＊＊＊

◇次世代支援対策推進法で策定の努力が求められている「業務計画の策定」については、会社から提示のあったところでも足りない要素があったり、要求した労組に会社は「努力義務の範囲だから」と、あっけない断りの回答だったと報告されました。

◇鹿児島で開催された「全国女性のつどい」については、寄せられたアンケートの集計から「もっと発言する場や参加者同士話せる時間が欲しかった」などの要望がありましたが、概ね充実した、パワーのある楽しい集会だったと好評を得る事が出来ました。◇今年度の女性協議会・定期大会を10月1日（土）に開催する事を決めました。

女性をとりまく成果・問題点が出された

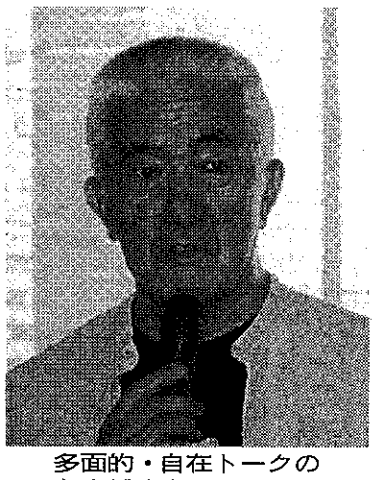
7/2 第22回 東京支社・女性のつどい

「定年後は老後ではない」（元文化放送 鎌内啓子氏）

「放送には女性の視点必要」（永六輔氏）

7月2日の午後、都内・内幸町において『まさか！は、すぐにやってくる～どないします～』のタイトルで、22回目の「民放・東京支社に働く女性の集い」が催されました。参加者はいつもの支社の仲間、キイ局の仲間、さらに各地連の女性協議長も加わり、また一つ参加の輪が大きくなり79人となりました。

元文化放送の鎌内啓子さん



多面的・自在トークの永六輔さん

第一部は『まさかの時代でも、あわてないケセラセラ』と題し元文化放送の鎌内啓子さんが、定年後はあれもしたい、これもしたいと思っていたのに、思いもかけず（!?）長寿を保っておられる父上の介護という問題に直面し、ヘルパーさんたちといかにつきあうか、介護されるお父様との交流のしかたなど、いずれは私たちも直面するまさか！の一面を明るく語ってくださいました。

一方、この春から武蔵大学の非常勤講師として教えることで、これまで培ってきた仕事の集大成を結果的に自分なりにまとめることになったこと、さらに、日本フィルハーモニーの演奏を地域の人に楽しんでもらう活動もしておられるというエネルギッシュな様子は、「定年後は、老後ではなくシニアスタート」という言葉そのままで、不透明な未来も、なんとなく明るくやっていけそうな気分に。往年の名番組「ちょっと待ってMONDAY」制作時のエピソードなど、貴重なお話も盛りだくさん。人生を四季にたとえるなら、私の今は、一番美しい錦秋の時、と締められました。第二部は、永六輔さんの記念講演『放送局、どないします?』。機関銃トークに圧倒されながらも、裏話や秘話に爆笑の連続。もしこれがオンエアだったら…放送できない内容だけで編集が大変！という、生だからこそ聴けた贅沢な講演でした。まずは、テレビってどうしてこうなの？という問題提議から。〈レッサーパンダが立ち上がったと放送されると全国で一斉に動物が立ち上がる放送となる。本来動物は立つもの〉と。そしてドキュメンタリーや番組企画のネタはいくつ…

今年はまた一回り参加者がにぎやかに